

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>今年度、職員一同、それぞれの考えを出し合い、より地域の皆様と密着を図る姿勢を含めた、新たな理念を作り上げた。</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念の共有化に向け、ミーティングやカンファレンス、申し送りの際に話し合ったり、確認し、実践に向けて取り組んでいる。職員のネームプレート裏に理念を記入したり、玄関、2階フロアー、事務所と目につく所に掲示している。</p>		
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>地域と密着した事業を行い、利用者が慣れ親しんだ地域の方々に守られて生活できるよう、町内会には事業所だよりを回覧していただいたり、運営推進会議にて町内会の方々に発信源になって頂けるようご協力の依頼をしている。家族には通信にて地域の方々に協力していただいている事を随時報告している。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ゴミ出しの際、散歩時、通勤時など、お会いするご近所の人達のは声を掛ける様心がけている。近所づきあいは年々深まりつつある。玄関先で帰られていた方がホームへ上がってくださり、おしゃべりを楽しんで帰られたことも有る。</p>		
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の花壇作りへの参加、清掃などに利用者と一緒に参加している。今年は親睦会に利用者・職員共に参加し、地域の一員として、地域の人達と交流ができた。今年度から「子供SOS」避難所として登録。鍵を忘れて帰宅できないお子さんを親が帰ってくるまでお預かりしたケースもあった。</p>		
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>高齢者の多い地域のため、ゴミ出しの際、ゴミステーションにて、網を持ち上げて、地域の高齢者の方々がゴミをすてやすくお手伝いしたり、何かこまった事があった時には、いつでも声を掛けてくださる様に声を掛けている。</p>		<p>高齢者の多い地域のため集会で認知症についてお話をさせて頂きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や目的を職員全員が理解し、職員全員で評価を今年度も行っている。外部評価の結果をもとに、改善すべき点を職員全員で検討できるよう努力している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの様子、行事、サービス内容を報告している。いろいろな意見を頂き、検討事項は職員と話し合いサービス向上のために努力している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市管理者会議のは必ず出席している。市町村と共にサービスの質の向上に努めている。判断のできない事があったり、困難事項があった場合は、札幌市担当者に電話にて相談にのっていただいている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度について、勉強不足である。研修会に参加したり独自で知識を深めなければならない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連の研修会に参加している。虐待防止の「教育システム」講習会に参加し、職員全員で、事例検討会を行っている。		今後は、職員のストレスマネジメントを行い、虐待防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を充分にとって説明をしている。特に料金・看取りについて・医療連携体制の実際などについて詳しく説明し、理解・納得していただいている。契約を解約する際はこれからの不安が無い様に協力している。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、願いは、日常の中でいつでも聞けるように配慮し、また気軽にはなしていただけるような心配りをしている。出された意見、願いは管理者・職員が日々話し合いで対処し、利用者本位の運営を心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月個々に、家族への通信を出して、健康状態などの近況報告をしたり、写真も掲載し報告している。職員の異動があった時にはその都度お知らせしている。金銭に関しては、お小遣い帳を作成し、領収証(レシート)と共に送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等が意見、願い、苦情をいつでも言ってもらえるように配慮し、気軽に話していただいている。出された意見などは即、職員間で話し合い運営に配慮している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションをとり、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。全体会議、申し送りの際に聞き出せない時は、夜勤帯に聞く機会を作っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態やペースに合わせ、その都度必要に応じて職員の配慮(シフト)を考えている。また職員は、急なシフト変更でも協力体制ができています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職がやむを得ない場合は、利用者の心理的状況、ダメージを考え、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。女性利用者は、男性職員に対し心が和む傾向にあるため、男性職員が欠けないように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>勤続年数3年以上経過した職員は、認知症実践者研修に参加できるように計画・実施している。事業所外の研修には、多くの職員が参加できるようにシフト調整し、出席している。後日、職員の勉強会にて研修報告し、共有化し共に勉強している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域のGH数箇所と「交換職員研修会」として、他のGHに見学に行く機会を設け、実施した。</p>	<p>接客について近隣GHと勉強会をしたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常さりげなく職員の悩み、ストレスを把握するように努力している。職員の間関係については常に目を配っている。職員の間関係が良好になるような食事会などを開催している。また今年度は、連続休日を実施した。職員の心や体のリフレッシュが目的だった。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得にむけての支援・配慮・協力をしている。また、管理者は年2回、職員の現在の仕事に対しての考え・向上心を個別面談にて把握し、スキルアップの方向性を確認し、協力している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初期段階では、事前面談行い、受容な態度で接し、徐々に不安や、本人の願望を聞く機会を作り、全職員が情報を共有している。センター方式を利用している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでの経緯についてじっくりと聞くようにしている。不安な事、求めている事に傾聴し、信頼関係を築くようにもしている。家族が来所しやすい、話しやすい雰囲気作りに努め、相談・小さな悩み事でも気軽に話していただいている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談を受けた時には本人や家族の思い、状況を確認し、改善や穏やかな生活が出来る支援の提案を行い、必要であれば訪問診療・訪問看護・訪問歯科・受診同行介助などのサービスに繋げている。その後、違う希望がみられた際は、違う支援を検討する。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>26 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>安心な場所、信頼関係が成立できるように努力し、少しずつ馴染みの関係ができた時点で、サービスを開始している。居室に関しても、以前より使用していた家具・馴染みの品々を持参していただき、少しでも変化の無い環境・雰囲気作りをしている。家族との関係も同様で密に連絡をとり、相談しながら行っている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>27 本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>喜怒哀楽を共有する事によって、利用者の立場になり、支えあう心が生じてくる。利用者には人生の敬意を表しながら過ごし、支えあう関係を築いている。</p>		
<p>28 本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者が思っている事が家族に伝わらない場合などは、職員が話しをよく聞き、その胸の内を家族に知らせる。または家族の気持ちなどを利用者伝えるなどの架け橋になれるよう努力している。利用者には家族と同じ思いで支援している事も伝わっている。</p>		<p>過去の関係を修復できずにいる家族がいるため、お互いを支援していきたい。</p>
<p>29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族が来所しやすい雰囲気作りに努め、行事の無い日でも気軽に立ち寄り、利用者と一緒に話ることができるホーム作りを心掛け支援している。</p>		<p>昼食会も取組んでいきたい。</p>
<p>30 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の希望や馴染みの人との交流には積極的に支援している。電話をする事、手紙を書くことなども支援している。週1回老人センターに通っている利用者や馴染みの理髪店利用の利用者もいる。</p>		
<p>31 利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>不仲の利用者が同じ手伝いをしている時には、必ず職員が間に入り、うまく調整するように心掛けている。個々の得意な事、好きな事を把握し、共通する者同士で楽しんだり、または、利用者全員で楽しむなど、いろいろな関わりあいができるように努めている。</p>		
<p>32 関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>利用者が他の施設に移っても、面会に行ったり、家族と連絡をとらせていただき、今後の生活にもお役に立てるよう断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>声掛けを大切に、返ってくる言葉そのものから、把握に努めている。困難な場合は、職員・家族と話し合い検討している。カンファレンス・センター方式を利用している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>いろいろな場面(入浴時・自室・リビング・調理中など)で会話の中から把握するように努力している。または、家族からの情報であったり、アルバムを見ながらの会話や思い起こす情報がとても重要を考えている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>出来る事・出来ない事・心身状態を常に職員間で情報交換し、一人ひとりの現状を把握するように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>介護支援専門員監理のもと、本人・家族の願いを中心に必要な関係者と意見交換を行い、カンファレンスを開催し、アイデアを反映したケアプランを作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>日常記入するカードックスにケアプランを貼り、必ず計画と現状を照らし合わせるようにしている。また、状況の変化があった場合は介護支援専門員の監理のもとカンファレンスを開き、チーム・関係者と話し合い、介護計画の見直しをかけている。</p>	
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人簿を作成し、食事・水分量・排泄・活動を記入している。気付いた事、本人の言葉も記入している。また1日2回の申し送りや申し送りノートにて情報を共有化している。「ケア検討・経過記録」「センター方式」も情報の一つであり、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援に対応している。医療連携体制は整っており、訪問診療・訪問看護と24時間対応していただける。経営者(運営者)は看護師でいつでも来所・指示対応してくれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方も時々来所して下さったり、ボランティアの方も年に4回ほど来所して下さる。週1回老人センターに通われ、カラオケ・囲碁を楽しまれている利用者もいる。年2回の避難訓練を消防の方にお願ひし、ご指導いただいている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域包括支援センターの方に相談し、情報をいただいたり、他のサービスを利用する際、利用者の状態を説明した上で支援させていただいている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が必ず参加して下さり、この事がきっかけに関係が強化された。ケアマネジメントや研修会などでわからない事があると、電話にて相談にのっていただいている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を大切にしている。24時間緊急の場合も往診や適切な指示もいただけるという事で、ほとんどが医療連携しているかかりつけ医となっている。内科以外の医療を受ける場合は、病院を紹介して下さり、本人・家族が決定できるようになっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の詳しい訪問診療医と常に連絡をとらせていただき、相談したり指示をいただいている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っているようにしている。医療機関とも契約していて、毎週木曜日に訪問看護、隔週の金曜日に訪問診療にて健康管理をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人の支援方法に関する情報を提供し、できるだけ日常生活状況、リズムが変わらないように支援していただけるように努めている。また、できるだけ職員が頻繁に面会し、安心感を与えるように支援している。また、家族の心のケアも行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約の際、重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族に説明している。医療連携している医師と常に連携し、早い段階で話し合い、職員ももちろん方針を共有している。		ターミナルケアについて、職員の勉強が今以上に必要と思われる。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の気持ちを一番大切に、家族とも話し合い、安心して納得した終末期を迎えられるように取り組んでいる。医療連携医師・看護師はチームとして、今後に備えて、日々の経過は常に連携がとれていて、準備も整っている。		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅へ移り住む場合は、本人と話し合いを十分に行い、本人と家族の関わり方やコミュニケーションの重要性をお伝えする。また、施設・病院へ移り住む場合は、ケア関係者間の情報交換を密に行い、今までの情報を伝達したり、資料もお渡しする。移り住んだ後も連絡を取り合い、本人が今後とも安心した生活ができるように協力している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	あまり堅苦しい言葉は使用していないが、人生の先輩である事を念頭において対応している。しかし、記録に関しては気をつけてはいるが、言葉の配慮が足りない時は、職員でチェックし具体的に話合っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いや希望を否定せず、まずは耳を傾けるよう心掛ける。一人ひとりの納得できる言葉を探し説明できる様努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのその日の状態や考え方、体調を大切に配慮しながら支援している。その人らしい自由な生活ができるよう、希望にそって支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容師の資格を取得しているボランティアの方が、本人・家族の希望にて支援している。また、本人の望む理容店は職員送迎のもと行っている方もいる。行事の都度、女性にはお化粧品、ヘアーのセットも支援。生き生きした顔になられる。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作り、調理、食器拭きを職員と共にしている。ギョーザ・いなり寿司・おはぎ・サンドイッチ等、皆でできる調理は一緒に作り、食事中の会話も弾む。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコを吸う人はいないが、嗜好品は好みを取り入れたり、珍しい物、新しい物を取り入れ楽しんでいただけるよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一時期のおむつ使用はあったが、排泄パターンや、習慣を活かすようにし、日中の時間帯は、おむつを外し、自力でトイレへ行く工夫をした結果、時々の失禁はあるが日中のおむつ使用はなくなったケースもある。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの湯加減を聞き、希望にそって温度調整を行ったり、体調に合わせてゆっくり入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	活動量や昨晩の睡眠状況を把握し、午睡を勧める事もある。夕方からはゆったりとした雰囲気を作り、温かい飲み物を勧めるなど、その方のペースを大切に休んでいただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	今までの生活歴や得意分野から一人ひとりの力を発揮して頂けるよう支援している。職員は感謝の言葉を伝え、達成感や喜びを感じていただいている。外出時には、普段とは違う服をご自分で選んでいただき、気持ちを向上できるよう支援したりしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族の希望もあり、普段はホームでお預かりしているが、買い物・行事などには、ご自分でお財布を持ち、好きな物を選び購入する喜びを感じとって頂くよう支援している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、その人、その人の可能な限りの外出を支援している。散歩にも出掛け、花畑をみたり、公園に行き体操、ゲーム、食事をしたりしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	バスをチャーターし、今年度は「滝の上の芝桜」など遠出も支援している。日常的な会話から、「 に行きたい」「 が欲しい」などの気持ち・希望を察知し、家族と連携をとり、外出したり、職員と個別に出掛ける機会を作り支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は自由にかけることができるようにしている。コードレスで自分の部屋でかけることもできる。「手紙を書きたい」という希望があれば、職員も一緒に寄り添いながら支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるようにオープンにしている。訪問時には、職員がお茶などでおもてなしをしたり、同席させていただき、コミュニケーションをとるように努力している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会を行い、職員全員が理解できるよう努めている。身体拘束が必要になった場合は、家族、職員で話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や日中玄関にカギをかけない生活をしている。いつでも職員と外の空気を吸うことができ、お花に水やり、洗濯物干しは悪天候以外日常的で、毎日の何気ない事が喜ばれている。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者が今、どこにいて時間をどの様に費やしているのかをしっかりと把握し、安全確認を怠らないように配慮している。夜間は居室が見渡せるホールにて様子観察をし、安全重視している。目だけの確認だけでなく、音の重要性も職員は把握できている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	縫い針や爪きり、はさみなど注意の必要なものは、一人ひとりの状況に応じて、保管・管理に努め、本人の希望によっては職員の支援のもとで作業を行い危険を防いでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「ヒヤリハット」「事故報告書」を活用し、カンファレンスで問題点を考える。「ホーム内勉強会」「救命救急講習会」に参加し、知識を学ぶ。火災・行方不明などは地域の協力を得られるように連絡先などを、町内会に配布しお願いをしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急の講習を年に数回行い、事故発生時に備え、救急に必要なマニュアルを用意している。急変時の場合を想定し、用意するもの一式を目のつくところに保管している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回以上の避難訓練を実施。地域運営推進会議でく協力を呼びかけたり、ご近所には緊急対応のお願いと対応文章を配布している。少しの地震が発生した場合でも避難している。		地域の方参加のもと、避難訓練を行いたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクに関しては、利用者の状況を把握し、家族のは現状をお知らせして、これからの体調の変化も家族と一緒に共有しながら抑圧感の無い対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックを行っている。歩行・顔色・言動の変化を見過ごす事のない様に努めている。変化が見られた時は、速やかに職員間で情報を共有し、Dr. N s. にも報告、相談、指示をいただく。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が把握できるように処方箋を保管し、いつでも目を通せるようにファイリングしている。また、薬の変更や用量変更の際は、職員全員に報告し、副作用についても共有できるよう申し送りノートに記入している。夜間帯の服薬に関しては、夜間帯に体調変化があった場合に対応できるように、夜勤者が必ず服薬管理をしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘によって体調の変化が見られる危険性があることを職員は把握している。毎日の排便チェックを行い、ヨーグルト・酢牛乳・繊維質の多い食材摂取している。一日1200CCの水分摂取量を目標にしている。体を動かすよう、自室の清掃、一日2回の体操をしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの必要性・重要性を職員全員が理解し、支援している。毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、一人ひとりの能力に応じて支援している。訪問歯科・医療連携歯科にて定期健診も行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量は一人ひとりの体格や健診時のデータなどで調整している。水分量は個人簿に記載し、一日の目安水分量は摂取できるよう支援している。メニュー表にて食材を確認し、バランスよく確保できるように支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	新型・季節性インフルエンザワクチンは家族の同意のもと、摂取している。通年ノロウイルスや感染症予防対策として、1日2回、トイレ・ホーム内を塩素系漂白剤にて消毒している。利用者使用のタオルは頻回に交換し、職員はペーパータオルを使用している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器洗いは熱湯消毒を毎回している。布巾、まな板は毎晩消毒している。清潔、衛生方法を取り決め実行している。冷蔵庫、食材庫を常にチェックし、消費、賞味期限の点検をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前には、犬の置物を置き親しみが持てるようにしている。季節の花や野菜を植えている。冬はロードヒーティングを使用。玄関戸には、ベルを設け安全を確保している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>台所・リビングが同フロアのため、料理の匂い、調理している音を感じることが出来る。懐かしい曲をさりげなく流している。民家改修型のホームのため難点はあるが、少しでも居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホールにはソファを置き、一人になりたい時など、そこに座って過ごしている。数分経つと利用者が一人、また一人と集まり、そこから何気ない会話が生まれて、笑い声も出てくる。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、昔から使っていた物を置き、介護度が増しても、「ここは自分の部屋」という認識を保てるように写真・お手紙などを掲示し、居心地良く過ごせるようにしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>空気清浄機を使用したり、温度計・湿度計を見ながら、こまめに温度調整をしている。利用者の発汗状況も確認し、職員の感覚だけで判断することのないよう、利用者の状況に合わせている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>民家改修型ホームのため、全てがバリアフリーの施設ではない。そのため、安全な生活ができるように「入居者の現在の状況」を常にチェックし、ミーティング・ヒヤリハット・カンファレンスを活用し、転倒や事故につながらないように生活環境を整え、自立への配慮をしている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>センター方式を活用し、解る事・出来る事。手助けしてもらいたい事などを職員で共有し、一人ひとりの混乱や失敗を防ぎ、いきいきと暮せるよう支援する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関周りにはプランターで花・野菜を育てる。花は切花として利用者に生けていただく。玄関前では、天気の良い日にはテーブルイスを配置し、お茶を飲んだり、昼食を召し上がったりする。また夏祭り・花火大会・体操も行った。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】 グループホーム ベル は、家庭的な雰囲気を大切に、入居者、地域の皆様と心と心のふれあいを大切に支援させていただいています。地域の皆様とのつながりも少しずつ増えてきているように思えます。職員は5～7年勤務がほとんどで、チームケアの大切さを理解しています。

等を自由記載)